

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社旗福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町長529番地		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大分県との県境に位置し、山間の緑豊かな環境の中に木造平屋建て(環境に優しい地中の熱利用)である。建物の周りには栗園があり、小鳥のさえずりや自然を満喫することが出来る。開設して丸2年が過ぎ、いまでは明日葉農園も馴染みになり、ボランティアの力を借りて、野菜づくりが出来ている。この野菜は毎日の食卓に使われている。地域の中での活動も増えてきて、買い物などでは地域住民の方に顔を覚えて頂く等、住み慣れた地域生活も安定されている。また、利用者の家族とも信頼関係が深まり、より良いケアに繋がっていることに感謝し、更なる利用者の「自分らしく生きたい」という思いを大切に支援を心がけて実施している。特に利用者の笑顔が自分達の励みであり、これからも利用者の皆様が安心して、楽しく暮らして頂ける様に地域住民の方々と交流を深めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年を過ぎたホームでは、“明日葉だより”の創刊や家族会の中で職員との意見交換及びカンファレンスの開催等により更に家族との信頼関係を深めている。また、今年は地域高齢者との交流会を開催する等地域資源を最大限に活かし生きがいのある生活に繋げており、地域との共生を入居者の輝いた生活基盤であると捉え、その実現に向けた交流促進が地域高齢者の活性化等の成果として表れている。地域住民との火災避難訓練や地域への貢献を見据えた炊き出し訓練等も行う等防災に対する危機意識も高く、地域住民も花や野菜の持ち届けの他、自宅の野菜収穫の声かけ等、支え・支えられる関係が築かれている。入居者の笑顔のパロメーターとして、“食べる・楽しむ等皆で!”の意識を持って、潤いのある日常を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は母体理念と共に明日葉ホール内に掲示している。また、開設と同時にスタッフのロッカーに貼り、この理念に基づき日々の支援に努めている。また、この理念に添ったケアが出来ているか、スタッフ間で振り返りを行っている。	基本理念「地域とともに生き…」と、開設時に全員で検討した利用者＝「自分らしく生きたい、支援者＝あなたの笑顔が私の幸せ、地域の中で共に輝いてくらしたい」をホーム理念としている。また、職員規範として個人の尊重や自立支援、地域との共生等を具現化して示し、職員は日々スローガンを読んでケアに入り、職員会議の中で9名の入居者が輝いた暮らしであるか検討している。“食べる・見る・楽しみ等皆で！”の意識を持って、潤いのある日常を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域のサロンに参加したり、区の美化作業(毎月、朝6時～スタッフ2名参加)にも参加。今年は初寄りに参加して、地域交流会を申し出た。5月・7月・10月と明日葉にて交流会を開催。地域住民の方より親近感が生まれ、良い交流会が出来ている。	地域の初寄りあいに参加し、地区事業計画に沿って河川・道路美化作業等に参加する他、地域サロンへの参加や今年は地域高齢者との交流会をホームで開催している。地区の収穫祭には手作りお菓子を出品したり、中学生のワークキャンプでは花火大会で楽しみ、菊鹿一周駅伝の応援等に出かけ、地域住民からの花や野菜の差し入れや自宅の野菜収穫の声かけ等支え・支えられる関係が築かれている。地域との共生を入居者の輝いた生活基盤であると捉え、その実現に向けた交流促進が、地域高齢者の活性化等の成果として表れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度より、運営推進会議に認知症サポーターリーダー2名参加。運営推進会議の中でも、認知症の方の行動障害等の話をする機会が出来てきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員より、社会資源等のアドバイスがあり、利用者の外出の機会も増えて来た。また、火災避難訓練等についても助言があり、5月に実施出来た。	定例化した運営推進会議は活動報告を中心に家族会での内容報告や今年から研修についても報告し、意見交換後の消防署立ち会いの避難訓練では委員も参加されている。地域の民生委員が輪番で参加されるなどメンバー構成も充実しており、雑談の中からもアドバイスや意見を見出し、行事等の情報収集等によりサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市開催の説明会に参加し、意見等を聞いたり、事業所の悩み等を聞いて頂いたり、利用者のケアプラン等を提出して助言を頂くようにしている。また、利用者の生活面等は、2ヶ月に1回新聞を送付し、活動等を報告している(運営推進会議も同様)	実地指導や説明会への参加、新規入居者のプラン及びプラン更新時に支援経過・モニタリング等も行政に提出し、運営推進会議録や“明日葉だより”の送付により情報を発信し、アドバイスを得ている。ホームも認知症サポートリーダーとして活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修等に参加し、スタッフへ落とし込んでいる。「絶対に拘束をしない・行わないケア」の中でも、今年度は言葉の抑制に注意を払っている。	身体拘束及び虐待の外部研修に参加し、複講により共有化とし、アイロック・スピーチロック等も抑制になることを再認識させ、会話の語尾や目の優しさ・表情に細心の注意を払うこと、また注意しあう環境を作ること、職員のストレスにも配慮することを管理者は指導している。入居者一人ひとりの外出傾向等を把握し、落ち着きがない場合には近くを散策したり、塵出しやショッピングに出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一人ひとりが自覚を持っているものの、ストレスにより虐待が起きないように、スタッフの心のケアにも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は研修の機会がなかったものの、利用者の中に、後見人制度を受けている方がおられる為に、その制度と共に、権利擁護についても勉強を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明事項及び契約書について、利用者及び家族に説明を行っている。説明後、疑問に思われるところ等がなかったか時間を取り、理解をされ事を確認した上で、同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設2年目となり、家族とスタッフの意見交換会を行った。日頃のケアや健康状態について説明。その後、担当との個別に意見等を聞く事が出来た。中でも家族より情報の共有化が出来ていないと指摘があり、スタッフ全員で振り返り反省する事が出来た。指摘して頂き、大変良い機会だった。それ以降、家族との信頼関係が深まった。	玄関に意見箱とともに家族の訪問時に気軽に意見が出しやすいように「何かないでしょうか？」とホーム側からきっかけを作り、職員の言葉づかいやゆっくりと話が出来たかどうか等を聴き、指摘事項は苦情相談簿に残している。法人としてリスクマネジメント委員会での協議やホームでも話し合い、家族に説明し、今年度は家族会の中での意見交換会やホーム便りを創刊し、家族との信頼関係の構築の一環としている。入居者は職員に直接申し出られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回、スタッフ会議を行っている中で、スタッフより意見や提案が出ている。また、年2回、面接評価を行い、意見等を聞いている。日頃は連絡ノートを活用して提案等を確認してケアの実践に繋げている。	定例会議(月2回)の中で、行事計画や業務改善等を話し合い、夏場の暑さ対策のグリーンカーテンとすだれ、身体介護上からの手すり設置等職員の意見や提案を反映させている。また、管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、申し送り簿・ケア日誌等により情報を共有し日常のケアに生かしている。福利厚生も確立し、職員旅行や上靴の支給等もあり、年2回の個別面接時にも意見等を聴集している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、個別に面接する事により、本人の意欲(目標)が達成出来る様に、助言したり、支援を行っている(給与・賞与)。労働時間はサービス残業にならないように、把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	母体施設の研修案内(施設外)とGH協会の研修及び、県社協取り組みの研修等に参加して、知識及び、技術の習得に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックの研修会に参加し、意見交換等を行い、明日葉のスタッフで検討したりしている。。また、管理者のみの意見交換会に参加して、より良い情報を得ようとしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にサービスを受けていた事業所より、情報を得たり、事前調査で、家族と面談を行い、本人の不安等を把握し、スタッフ間で共有する事により、本人の安心した暮らしへと繋げる努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時より、家族の困っている事や不安に思っている事を出来るだけ解消出来る様に、支援することで家族との信頼関係を築く。また、サービス開始段階より情報を出来る限り家族に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で、本人及び家族が一番必要としている事をスタッフの共通支援とし、「その時」の利用者の思い・家族の思いを受け止めながら、支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて、掃除や洗濯干し・たたみ、また、料理の下ごしらえ等、出来ることをしてもらうことにより、共同(共存)生活の一員として互いに支援し合う関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域資源への外出や、農園活動及び、明日葉の活動に参加して頂く事により、家族の絆を深めてもらっている。また、本人と家族間の関係に必要な以上に入り込まないように注意を払っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンに毎月参加することで馴染みの関係が構築され、今年から開始した交流会でも、お互いの信頼関係が深まってきた。また、地域資源に出かけることにより、自分の思い出に繋がったりしている。最近では買い物を通して、店員さんと馴染みの関係のようになってきた利用者も居られる。	地域サロンへの参加や馴染みの美容院の利用、地域の高齢者との交流、地元での買い物、地域行事への参加等馴染みの関係性の継続に取り組み、このホームがある地域に住んでいた入居者にとってはこの場所そのものが馴染みの場所である。期日前選挙等社会性の継続にも取り組み、遠方の家族の訪問等家族・親類等も頻繁に訪れ、農園作りに家族が手伝われる等家族との関係も構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、意気投合される関係も見られるが、男性1名という事情の中で、孤立されないように利用者全員でゲームをしたり、歌ったり、出かけたりして出来る限り全員での時間を取り持つように支援している。しかし、無理に参加を強制せずに、自由参加を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても家族との連絡を取り合い、利用者には会いに行ったりしている。現在は、在宅に退去された利用者が母体のサービスを利用中の為に、特に声かけに行く機会が増えて来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の気持ちや思いを聞き、出来るだけ思いに添った支援に心がけている。特に活動を行う時等が本人の意思がはっきりと伺えることが多い。意思の伝達が難しい利用者については、その立場に立った支援に心がけている。	職員は一人ひとりに寄り添い、その時々状況や背景等を探り、その時の会話から思いを推察したり、行動・表情が意思表示であると捉えている。「外に出たいね。」等簡単な言葉で思いを引き出す等意思の表出ができない場合でも、如何に選択肢を提案できるかということ等を考慮しながら、その日、その時の希望を実現するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に聞いたり、担当されていたケアマネ及び地域の方に聞いたりして、情報収集に努めている。ただし、個人情報になる為に、中々家族以外より聞き取りが難しくなってきた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から、一人ひとりの暮らしが定着しており、スタッフも把握が出来ている為に、本人の有する機能に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当を配置してアセスメントを実施している。また、毎月のカンファレンスを行っており、状態の変化の場合、家族への相談及び支援の変更を行っている。家族を交えてのモニタリングがなかなか出来ていなかった為に、家族とスタッフの意見交換会実施。この時に合わせて、モニタリングを行った	担当職員によるアセスメントや毎月のカンファレンスにより個々の状況を話し合い、介護認定更新毎にプランを見直している。家族会の中で、家族との意見交換会を実施し、モニタリングを行い、家族の意向を再確認している。また、職員はプランをカーデックスに入れ、確認しながら記録を取っている。	ADLや個々のニーズに詳細かつ具体的な現状に即したプランを作成しているが、更にカンファレンスの結果をケアに生かすべく、プランの追加や削除をされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録に、随時生活の様子を記録し、特に申し送りたい人は、利用者申し送り事項に記録(日勤・夜勤の引継ぎ)、休日のスタッフも情報が早く共有できるように工夫をしている。また、家族の相談等も記録しており、介護計画の見直しへ繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方より帰省された場合等、近くの旅館の手配や、施設までの送迎、また、利用者及び家族の希望があれば外出の支援等、柔軟な対応が出来る様に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア・認知症サポーター等の協力を得て、地域に出かけて自然を満喫したり、地域の人達と声掛け合うことで暮らしの豊かさに繋がる様に支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を重視し、家族の協力を得ながら受診を行っている。また、緊急の場合は家族と相談し、事業所の嘱託医に受診する場合もある。また、かかりつけ医に必要な情報を伝達して、本人の健康管理に努めている。	これまでのかかりつけ医を継続して支援する事を伝えている。入居者の現状を把握してもらうためにも基本的に受診は家族対応としているが、緊急時や状況に応じてはホームでも柔軟に支援している。又、日々のバイタルチェックや表情により健康観察、職員間の情報を共有し、異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表を元に日々の健康状態の把握に努めている。また、状態の変化が見られる場合は看護師(介護職兼務)に相談したり、緊急の場合は隣接の母体看護師に相談する等協力を得て、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院まで搬送したり、情報の提供を実施。入院期間中、出来るだけ見舞いに行き、病状の回復等について医療機関の関係者から聞く等、お互いの関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は見取りに対して、十分なスタッフの配置をしていない為に、加齢と共に迎える場合のみ受け入れ可能であるが、病状によっては医療機関をお願いする場合もある。基本は本人及び家族の意向を尊重し、十分に検討して行いたい。	現状では医療支援や痛みがなく、ホームの対応できる所まで在宅に近い形で支援する事としている。今後も日々の健康管理や職員の申し送りを徹底し、入居者の日々を支えながら、状況に応じ家族との話し合いの機会を持ち対応したい意向である。	重度化や終末期支援への対応については、家族への説明のタイミングは難しいものであるが、家族との話し合いや相談の機会を持ち意思を確認する事が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設の研修等に参加し、知識を習得しているが、定期的な訓練とはいかない為に、緊急発生時には母体の看護師に協力を得ることが出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を地域住民の参加を得て実施(昼間想定)。夜間想定も11月に実施予定。今後においても、年2回は実施予定。又、防災対策等についても、母体施設と共同でマニュアルを作成中。GHにおける災害対策研修にも積極的に参加して、スタッフの意識高揚及び訓練等も検討中。	昼・夜を想定した火災避難訓練や山から調達した“たき木”や、ドラム缶を使用した食事作り(だご汁)など、地域の方の参加協力を得ながら様々な取り組みが実践されている。地区の初寄り会では自衛消防バケツリレーや、地域消防団による夜間見守りが行なわれる等防災意識の高さの中、ホームも自分たち出来る安全対策を検討したり、予測不能な自然災害について母体法人と対応策を検討している。管理者は日頃より通勤途中の道路の安全確認を意識するよう指導する等災害に対し、リーダーシップを発揮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で、その方のプライバシーを尊重する言葉かけを行っているも、こえ掛けの言葉が大きくなったりしている時があるので、スタッフ間で助言しながら、一人ひとりを尊重出来る様に心がけている。	基本方針に個人尊重を掲げ、入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援について共有し、実践に努めている。呼称は基本的に苗字や下の名前とし、入室時のノックによる了承の場面も確認された。男女一緒のトイレ室もあり使用にあたっては十分配慮し、個人情報の使用は家族への了解を得、職員へも守秘義務の指導や毎年書類による誓約を交わしている。	高齢者への声かけ等を全員で検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面、場面で、本人の思いや考え・意思決定が出来るように解り易く説明をしている。違った言葉が出て来てもこちらで言い直して、本人が理解出来るように声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を把握して、その日の生活や活動への参加等、スタッフ間で話し合いながらその人らしい生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きたら洗面と一緒に身だしなみを行っている。また、外出や行事によってはお化粧をされている。お化粧をする事により普段と違う気持ちが見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の料理にも取り入れている。また、季節の材料や明日葉農園で取れた食材を使って一緒に下ごしらえをしたりしている。	入居者の好みを聞き取りながら旬の食材を活用した献立を作成し、母体法人の栄養士からカロリー計算やアドバイスを受けている。家庭の味を大切に料理は好評である。調理は職員が中心に行なっているが、入居者も野菜作りやもやし根切り、ゴボウのさがき、味見、片づけなどできる事を支援している。また、弁当を持って外出したり、ドライブ先での外食など楽しい支援は記録からも確認された。	職員も一緒に見守りや会話を楽しみながら食事支援が行なわれており、エプロンの使用にあたり、メニューによっては使用の有無や方法を検討いただきたい。又、食事の記録書も味の濃淡、盛り付け、メニューバランスなど次回に活かせるような感想を記録する事で更に入居者の満足に繋がる食事となる事が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については献立のバランスを考えながら行っている。また、食事形態についても、義歯のかみ合わせや咀嚼等を見ながら提供している。水分量についても、頻回に提供を行い、脱水症や排泄困難にならないように心がけている。また、栄養バランスについては母体の管理栄養士にカロリー計算をお願いしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を実施し、唾液分泌を促している。毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の異常発見等にも心がけている。異常等が見られた場合は家族に相談して、歯科受診等を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。又、食事前後には必ずこえ掛け・誘導を実施している。パットも個人に合った物を取り揃えて使用している。	排泄パターンを把握し、特に食前には声かけを行い日中はトイレでの排泄支援に努めている。排泄用品もその方に合った組み合わせを検討し、自立や気持ちの良い排泄支援に繋げている。現在四通りの組み合わせの方など、職員で連携しながら個々に応じた支援に取り組んでいる。又、男性用立位式便器も設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように料理の中に食物繊維を取り入れるよう心がけている。また、おやつにもサツマイモ料理や、水分も多く提供したり、乳製品等も多く取り入れている。個人の排泄パターンに向けた独自の乳製品も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後に実施。本人の希望があれば夜も実施可能。入浴スタイルは自宅浴と同じく、一対一で、ゆっくりと入って頂く。また、毎日、足浴も実施して、夏場の水虫の予防や治療を行っている。5月は菖蒲湯・12月はゆず湯・時々香りも入れてお風呂を楽しんで頂いている。	毎日入浴できる環境にあり、希望があれば夜間入浴(九時位まで)にも対応している。足浴も取り入れながら入居者と一対一で会話や見守りを行いゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。また、菖蒲やゆず湯等の季節風呂や入浴剤を使用した香り湯も取り入れている。温泉入浴なども検討する意向である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	建物全体が、地中の熱を利用した空調設備を入れている為に、夏・冬の気温の変化が身体に影響しないようにしている。本人が休みたい時は自由に休む事が出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の説明書を一つの綴りとして管理することにより、スタッフ全員が把握できている。内服薬が変更になった場合は、ケア記録表及び、スタッフ申し送り簿に記載し、早く情報を共有出来る様にしている。その後の状態に気がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技等を日々の生活(料理の下ごしらえ・掃除・チリ集め等)の中に取り入れている。現在は利用者本人も覚えておられ、生きがい共思われる。また、裁縫をされたり、包丁使いも上手になられてきた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも、本人の希望に添って、地域等に出かける事が出来る。また、季節感を感じてもらえる様に地域資源を活用し、季節感を感じてもらったり気分転換を図っている。利用者全員で出かける時は、家族やボランティアの支援を得ている。	高台にある法人の敷地内で山々を眺めながら散歩をしたり、菜園やプランターでの野菜作りなど希望に応じ支援している。又、買い物など個別支援や、できるだけ全員で外出できる機会を計画し季節の花見(桜・菖蒲・藤など)の他、今年度は家族の協力(みかん畑の提供)によりみかん狩り外出や高齢者キャンプファイヤー見学など夜間外出も行なわれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方より小遣い程度を預かっている。買い物や、活動で出かけた時に本人と一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には毎月、健康面及び暮らしの状況について手紙にて報告している。また、手紙の代筆等の支援を行っている。電話については希望時に取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間にお花を飾ったり、植物を置き、精神面の安定に心がけている。また、静かな音楽をかけたり、TVによる「こころの歌」を見て聞く等、心豊かに過ごして頂く様に気配りを行っている	入居者が日中の殆どを過ごすリビングホールは吹き抜けで開放的な作りであり、適宜な換気や室温管理により居心地の良い空間となっている。玄関をはじめ、洗面台やトイレなど随所に飾られた季節の花や、行事・外出時の写真、日めくりカレンダーの掲示等、入居者が楽しみやメリハリを持って過ごせる工夫が施されている。浴室やトイレ、廊下をはじめ、共用空間は不快な異臭も無く清潔に管理されている。	事業所内は季節感に配慮し過ごしやすい空間が作られており、今後は脱衣所をはじめ定期的に物品の整理や収納方法などを確認する事で更に居心地の良い空間に繋がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置。廊下の中央に椅子を2脚・テーブルを設置。いつでも気の合った同士やちょっと自分の空間を持つことが出来る様にしている。また、ホールの横に一人の時間が持つ事が出来る様に空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の馴染みの置物や、必需品、家族の写真飾り、花を飾ったりして、本人が居心地良いと思えるような部屋作り心にかけている	それぞれの居室は入り口に異なる手作りの表札が下げられ、家族の協力により使い慣れた鏡台やタンス、日用品、化粧品等が持ち込まれている。また、家族写真の掲示や観葉植物、切り花が飾られ穏やかに過ごせる空間となっている。家具の位置や寝具の調整なども、家族と連携し安全に居心地良く過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には、手作りの名札を掛けて、トイレ・浴室等にわかりやすく目につき易い位置に掛けている。また、利用者が誤飲や、異食されないように危険物等については安全な場所に管理し、安全に暮らしが営めるように気配りを行っている。		